

○長崎市万才町遺跡出土の(斜縁)四獣鏡の面径を13.4㍍から6.4㍍に訂正いたしました。
(訂正箇所 9頁第6図21および12頁第1表No37)

なお、同鏡の発掘調査報告書(長崎市埋蔵文化財協議会編1996)および下垣集成の一覧表も訂正が必要ですので、引用の際はご注意ください。

○九州歴史資料館が保管する伝平戸松浦家旧蔵の獣帯鏡について福岡県教委文化財保護課の大庭孝夫さんより情報提供をいただきました。

同氏が10年前に同鏡の資料紹介を行った論攷です。なお、同鏡は個人蔵のため、大庭氏の論攷をweb上で公開することは控えました。同鏡の画像も同様です。論文要旨は下記の通りです。

なお大庭氏の論攷そのものをお入り用の方は古門までお知らせください
(E-mail:cqe07660@yahoo.co.jp)。データをお送りいたします。

1 論文名 《資料紹介》伝平戸松浦家旧蔵の獣帯鏡

2 著者 大庭孝夫(福岡県教育委員会文化財保護課)

3 掲載誌 九州歴史資料館研究論集38

4 刊行年月 2013(平成25)年3月

5 論文要旨

- 平成22(2010)年春 九歴が福岡市在住の個人より出土地不詳の銅鏡の保管について相談を受け、当館が寄託をうけることになった。
- 所有の経緯から、かつて平戸松浦家が所有していたと想定できた。
- 鏡式は岡村分類の漢鏡5期に製作された浮彫式獣帯鏡Ⅰ式である。
- 同鏡の現状は、発見時と考えられる強い衝撃によって4片に割れているが、かつて接合補修を受けた状態。
- 面径は21.7~22㍍ 重量は1405.6㍑ 大型鏡である。
- 浮彫式獣帯鏡Ⅰ式では国内最大級の大きさ。
- 本鏡と同型鏡は確認できない。
- 辻田淳一郎氏の研究に依ると古墳時代前期の九州地方では大型の中国鏡の出土例が少ないという。
- 従って、平戸藩内出土や九州地方での出土の可能性も残るが、瀬戸内以東の近畿地方を中心とする地域での出土の可能性がある。
- 平戸藩第9代藩主松浦静山(1760~1841)はいわゆる好古家の一面を持っており、大阪の商人で木村蒹葭堂から古器、書などを多く購入していたことが指摘されている。そのため本鏡もそのような交流の中で入手した可能性がある。

以上